

令和 7 年度 晃宝小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「豊かな心と健やかな体を持ち，創造的に考え，自らの向上とよりよい社会の発展を目指し，たくましく生きぬく人間」の育成を図る。

子ども像：進んで学ぶ子 がまん強くやりぬく子 仲良く協力する子

合言葉：晃宝っ子 やる気（知） 根気（体） 思いやり（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基調とし，豊かな心を持ち，知・体・徳の調和のとれた，持続可能な社会の創り手として，生涯にわたってたくましく成長し続けられる人間の育成を図る。

「地域が学校～地域に学び，地域とともに伸びる晃宝小学校」を目指し，児童・保護者・地域の想いを生かして，全職員参加型の学校経営を展開することにより，児童にとって「明日も来なくなる楽しい学校」を目指して，「学びや笑顔のある学校」「仲間のいる学校」「活力のある楽しい学校」「安心・安全の学校」の具現化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 持続可能な社会の担い手を育成するために，目指す子ども像や学校経営方針を共有し，家庭・地域社会とのさらなる連携を強化し，地域とともにある学校づくりに努める。
- (2) 学校教育における「学習活動」と「児童指導」の基盤となる学級経営を重視し，学びに向かう集団（学級）づくりをめざして，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。また，「宇都宮モデル」を活用し，内容や時間のまとまりを見通した授業をデザインした上で，ねらいを明確にして実施しながら，単位時間の指導の充実を図る。
- (3) 総合的な学習の時間や特別活動の時間などを中心に，教科横断的な視点に立ったカリキュラムマネジメントに努め，各教科等で身に付けた資質・能力を活用しながら，課題解決に取り組んでいける児童の育成を図る。
- (4) 心の教育の充実により，目標に向かって挑戦するたくましさ，規範意識や思いやりの心を育み，これからの時代を生きる児童に必要な資質能力である自己肯定感・自己有用感の高い児童を育成する。
- (5) いじめ問題は最大の人権侵害であることから，根絶に向け，児童主体のいじめ根絶の取組や道徳の授業をとおして差別やいじめを許さない態度を育成する。
- (6) 進んで運動に取り組み，自身の変容や成長に気付き，生涯にわたって心身ともに健康に生活する資質や能力，安全教室や想定避難訓練等をとおして，自身の安全を守るための判断力や実践力を育成する。
- (7) 教育公務員としての使命を自覚し，豊かな人間性を備え，高い指導力と情熱を持ち続け，常に児童と向き合える教職員をめざす。
- (8) 全職員参画型の学校経営を目指し，意図的・積極的な役割分担（校務分掌配置等）とベテランをサポート役とした○J Tに取り組み，ミドルリーダー及び若手教員の育成を図る。
- (9) 「教員が元気でなければよい教育はできない」という信念のもと，教職員の健康管理とワークライフバランス（プライベートの充実）を意識した働き方の実現に向け，チームでの仕事分担，教職員各自のタイムマネジメント力の向上，意識改革や業務改善に取り組み，「学校における働き方改革」を進めていく。

【国本地域学校園教育ビジョン】

自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 各種教育法規や県及び市の指導方針の下，本校教育目標達成のための経営方針並びに前年度学校評価の課題等を踏まえて，本校教育の特色を具現化できるように編成する。
- (2) 人間尊重の精神を基盤とした本校の教育目標，経営方針，努力の方向等に基づき，心身ともに健康で，人間として調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指すとともに，地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分考慮した編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学習指導】

- 基礎・基本の確実な定着 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ○学びが実感できる楽しい授業
 ○学校図書館教育の充実 ○体験的学習・地域の力を取り入れた教育の充実 ○個別最適な学びの環境づくり
 ○1人1台端末などのデジタル機器の効果的な活用 ○言語能力や情報活用能力の育成

【体力向上】 ○健康と体力の保持増進 ○安全教育・食育教育の推進 ○運動する環境づくり ○教科体育の指導の充実 ○休み時間時の外あそび推奨 ○家庭と連携しての基本的生活習慣指導 ○自己肯定感を高めることによるやり抜く態度の育成 【豊かな心づくり】 ○道徳教育・心の教育の充実 ○特別活動の推進 ○特別支援教育の充実 ○人権教育の充実 ○教室内・校内の環境整備 ○いじめを生まない指導・支援の充実 ○異学年の交流（GFT 活動）の充実				
---	--	--	--	--

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 学習活動に課題解決型の活動を意図的に取り入れる工夫をする。自分の考えをもとに友達と話し合うなど場面を多く取り入れる。 ② 課題解決に必要な情報を集める経験を重ねるため、図書資料や1人1台端末を利用する学習活動を取り入れていく。		
1ー（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 〈児童・教職員アンケート80%〉	① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、道徳や各教科の他、教育活動全般において、「思いやり」の心を育む教材での指導の充実を図る。 ② 縦割り班活動（GFT 活動）の一層の活性化により、児童同士が互いを大切にし、認め合う態度を育む。		
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 教育目標の合言葉「やる気 根気 思いやり」のもと、目標をもって活動に取り組める場面をより多く設定し、粘り強い取り組みによって児童が達成感を得られるように支援する。 ② 心の「たくましさ」の涵養に向け、やり抜く心や折れない心を育成する体験活動等の一層の充実を図る。		
1ー（3） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート80%〉	① 校内外での生活において、安全に行動しようという意識を高めるよう、様々な機会をとらえて、発達段階に応じた指導を行う。 ② <u>保健だよりや食育だよりの発行や、定期健康診断、給食週間やお弁当の日の実施等を通して、家庭の健康や食に対する意識が高まるよう啓発を行う。</u>		
1ー（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 〈児童アンケート80%〉	① 学校生活の様々な場面でお互いのよさを認め合うことができるような機会を意図的に設定する。 ② グループ活動で、協力して課題解決をしていくような場面設定を工夫する。		

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 〈児童・教職員アンケート 8 0%〉	① 外国語活動・外国語において、英 語によるコミュニケーションの場 を意図的に設定し、より効果的にコ ミュニケーションが図れるような 支援により、外国語活動の一層の充 実を図る。 ② ALT との授業内容等の打ち合わ せを充実させ、発達段階に応じたき め細かな支援に生かす。	
	A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 〈児童アンケート 8 0%〉	① 生活科や社会科、総合的な学習等 において、国本地区や宇都宮市につ いて学習する機会をとらえ、その 「よさ」について考える活動を意図 的に設定する。 ② 図書やパンフレット、インターネ ットなどから宇都宮学に関する資 料や情報を収集し、自分の住んでい る地域や宇都宮市について触れる 機会を増やして、その良さについて 考える活動を設定する。	
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 〈児童アンケート 8 0%〉	① 各学習活動において、ICT 機器や 図書を活用することが有効な場面 について、さらなる検証を行い、よ り効果的な活用を行うことで授業 の充実を図る。	
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 〈児童・教職員アンケート 8 0%〉	① 各教科・領域において個々のテー マについて別々に実施していた学 習を、「持続可能な開発のための教 育」(以下 ESD) の視点で統合的に再 構築する。 ② 各学習における、環境問題やエネ ルギー問題、国際理解、防災等にか かわる活動の場面をとらえ、日常生 活と地球の課題との間につながり があることが認識できるよう、児童 に働きかけるなど、教職員が ESD を 意識して日々の教育活動を実践す る。	
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 〈教職員アンケート 8 0%〉	① 特別な支援が必要な児童生徒一 人一人が自信と意欲をもって学校 生活を送れることを目指し、かがや きルーム（特別支援教室）やゆうゆ う教室（通級指導教室）の効果的な 活用を行う。また、関連機関との連 携により、多国籍化する外国人児童 等への日本語指導を充実させる。 ② 「宇都宮市学校教育における合理 的配慮に係る手引き」の活用等を行 い、教職員研修の充実により、教職 員の指導力を向上する。	

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート80%〉	① 「いじめゼロ強調月間」に「いじめゼロ集会」を設け、いじめ根絶に努めるとともに、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導する。 ② 児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるよう、児童との相談週間「おはなしタイム」(年2回6月11月)を充実させる。 ③ 児童指導研修会(年3回)や特別支援委員会(年5回)の実施により、全職員による協力体制を強化し、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 〈児童・保護者・教職員アンケート80%〉	① 各学級において、日々の児童観察や、信頼関係の構築に加え、教育相談の充実を図り、児童一人一人に寄り添いながら個に応じた支援を行う。 ② ケース会議や不登校対策委員会により、不登校の予防や不登校傾向児への対応の充実を目指し、学校体制で不登校対策の強化に取り組む。	
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート90%〉	① <u>学校行事や教育活動等に児童が意欲的・主体的に取り組めるよう、一人一人が活躍できる場や、多様な人と交流できる場を設定する。</u> ② なかよしタイム(業間)やふれあいタイム(昼休み)を活用した活動を充実させ、外遊びや縦割り班活動(GFT活動)での遊びを充実させて、明るく楽しい学校をめざす。	
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート90%〉	① <u>一人一人の学習意欲を高め、分かる喜びやできる喜びを味わえる授業の工夫・改善に努める。</u> ・授業のねらいの明確化 ・学習の振り返りの工夫 ・教材開発、教材研究 ・指導法の工夫 ② 児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導や効果的な支援体制に努める。 ・習熟度別学習やTT、少人数指導 ・かがやきルームの有効活用 ③ 教師が互いに授業公開をし合っ ての検討や、要請訪問等の授業研究・研修等を通して、教職員の授業力の向上を図る。	
4- (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 〈教職員アンケート80%〉	① 関係職員との協力が可能な内容や場面を明確にし、教職員が各スタッフの専門性を十分に活用できるようにする。 ② 各スタッフが参画するものについて、その意義を明らかにし、教育活動充実のために、より効果の上がる連携を模索し、充実した学習指導や教育活動が行えるよう工夫する。	

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 〈教職員アンケート90%〉	① 学校行事の抜本的な見直しを行うとともに、本来学校が担うべき業務を明確にし、学校外の諸機関や保護者に対し、業務内容や勤務時間についての理解を得る働きかけを行って、業務を精選する。 ② 各種専門機関や地域等の学校支援の充実により、教職員が児童と向き合う時間を確保する。 ③ 時間調整を工夫し、職員間で必要な連携を図るための、打ち合わせ時間や作業時間等の確保に努める。	
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 〈教職員・保護者・教職員アンケート80%〉	① <u>交流授業を実施する。</u> ② <u>4校の教職員が協力して、小中学校において、一貫した保健指導や食育指導、読書指導等の取り組みを実施する。</u>	
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 〈児童・保護者・地域住民アンケート80%〉	① 登下校時の自治会やPTA地区委員会の見守り、「こども110番の家」訪問の実施など地域との連携・協力を推進する。 ② 学校・家庭・地域の連携を行い、学習支援ボランティアによる学習支援を積極的に活用して、児童の学習活動の充実を図る。	
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 〈保護者・地域住民アンケート80%〉	① 常に児童の安全に十分配慮して、校内環境の整備や維持を行う。 ② 毎月の安全点検を的確に行い、児童の安全な生活のために、迅速な補修・修繕を行う。	
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 〈教職員アンケート80%〉	① 1人1台端末を始めとするICT機器の効果的活用により、主体的・対話的で深い学びを促進する授業づくりを行う。 ② 学校業務に積極的にデジタルを使うことができるよう教員間で情報交換を活発にする。	
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 〈児童・保護者・教職員・地域住民アンケート80%〉	① 児童・保護者・地域・教職員が協力し、時と場に応じたあいさつができる習慣づくりを目指す。 ② <u>地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、明るいあいさつが実践できるようにする。</u> ③ <u>校内での指導を継続するとともに、家庭と地域が連携して指導に当たれるよう学校からの発信を工夫する。</u>	

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 〈児童・保護者・教職員アンケート80%〉	① 「晃宝っ子の1日」をもとに、生活において守るべきルールを月生活目標として各教室に掲示する。約束の内容や意義を児童・保護者・職員が共有し、共通理解のもと指導にあたる。 ② 生活指導当番による校内巡視や、児童指導連絡会における児童の様子についての情報共有により、児童の実態把握に努める。共通理解に基づき全校体制による指導改善を図る。	
地域連携	B3 学校行事やボランティア活動等、地域の人々や保護者と児童生徒が交流する機会がある。 【数値指標】 〈児童・保護者・地域住民アンケート80%〉	① PTA主催行事（晃宝祭等）や地域協議会主催行事（池そうじ等）への参加促進を図る。 ② 地域の団体主催事業（チャレンジウォーク、かるた大会、たこあげ大会等）への参加促進を通じ、交流事業の充実を図る。	
家庭学習への取り組み	B4 児童生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート80%〉	① 宿題に対してや、自主学習ノートへのコメントを通して、児童の意欲喚起を図る。 ② 「学習のきまり」などで家庭学習の目安時間などを示すことによって目標を持たせる。	
健康体力	B5 児童生徒は、自主的に自分の健康には注意をして生活している。 【数値指標】 〈児童・保護者アンケート80%〉	① 健康診断結果お知らせや、保健だより等により自分の健康に興味をもち、治療や日常的な運動の大切さの理解を深める。 ② なかよしタイム（業間）やふれあいタイム（昼休み）を活用した活動を充実させ、外遊びや縦割り班活動（GFT活動）での遊びを楽しむことによって体力づくりにつなげる。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。